

平成28年度決算

まちのお金の使い方をチェック

平成28年度の主要事業

単位：万円

部	科	目	事業名	事業費
総務部	総務費	企画費	行政情報化事業	4,702
			筆の里工房事業	12,950
	商工費	商工費	筆産業振興事業	1,056
			公園整備事業	1,008
民生部	民生費	都市計画費	災害予防及び応急対策事業	2,817
			保育所運営事業	53,176
	衛生費	児童福祉費	保育所緊急整備事業	15,821
			感染症対策事業	5,555
建設部	土木費	保健衛生費	生活習慣病予防対策事業	3,944
			都市再生整備事業	3,362
	土木費	道路橋梁費	町道呉出来線改良事業	3,290
			(国庫) 橋梁維持修繕事業	2,365
教育委員会	教育費	都市計画費	子育て世代「住むならくまの」応援事業	1,493
			中学校大規模改造事業	7,572
	教育費	中学校費	学校給食事業	14,876
			学校給食費	2,782
		社会教育費	公民館一般事務	2,782
			社会体育施設管理事業	2,277

※表示単位未満は四捨五入をしています。

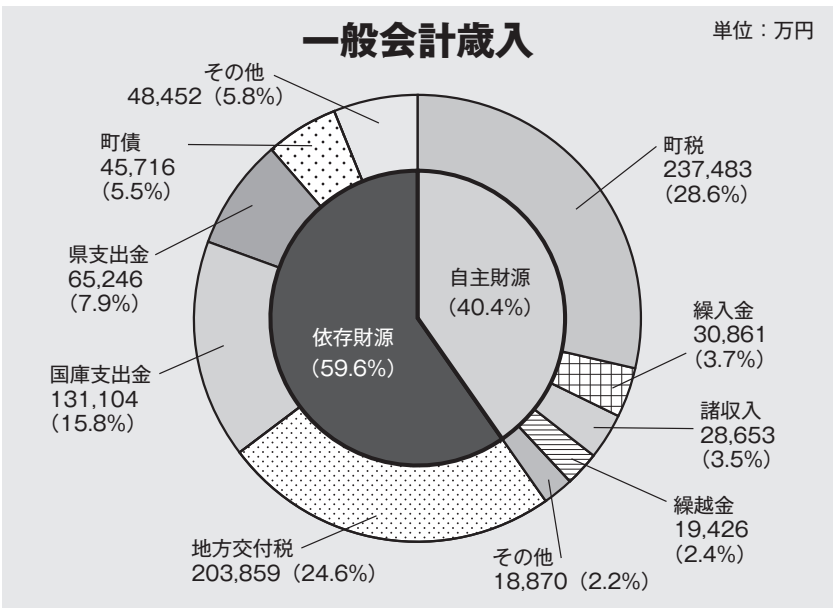
- 質疑の一部を紹介
- 上水道事業
- Q. 水道ビジョンは最終的なものか。また、もっと具体的に老朽化対策等を示した方がよいのではないか。
- A. 10年間の構想としては最終的なものである。施設更新費用が年に3億円以上かかり厳しいが、年に1億円程度で計画し、当面は料金改定をしない予定である。
- Q. 県で統一するという話がでているがその内容は。
- A. 全国的に先行きに不安があり、県単位の一つの水道事業とする方向性が示された。熊野町は他市町とは違い、100％県水を利用しているので、広域連携はスムーズに移行できるのではないかと考えている。
- 補助金関係
- Q. 補助金を団体へ交付する中で、評価や成果の点検を正しく行い、また単年とか3年を区切りとして厳しくチェックしてほしい。
- A. 事業補助は、町が参画するものは事業内容を精査し成果を、大会補助は、住民が多く参加しているかを、団体補助は、補助要綱に沿って実施しているかなどを、しっかりと精査し適正な支出を行っていく。
- 国民健康保険事業
- Q. 国民健康保険事業の広域化については。
- A. 来年度から県との共同運営になる。10月に県から納付金・標準保険料率の仮算定、12月に運営方針が示される予定である。保険税については6年後の県内統一を目指している。
- Q. 保険税はどうなるか。
- A. 2月に県の通知を受けて町で決定する。

9月12日から開会した「第4回定例会」に、町長から平成28年度各会計決算認定案が上程されました。これを審査するために、議員全員で構成する「決算特別委員会」（藤本委員長、沖田副委員長）を設置し、委員会に付託し審査することとしました。

決算特別委員会では、2日間にわたり調査・質疑等を行い、慎重に審議した結果、全ての会計を全会一致で「認定すべきもの」と決定し、委員長報告書を作成して閉会しました。

特別委員会閉会後に再開した本会議では、委員長が報告を行い全て原案のとおり認定しました。

一般会計決算 歳入総額 82億9,670万円

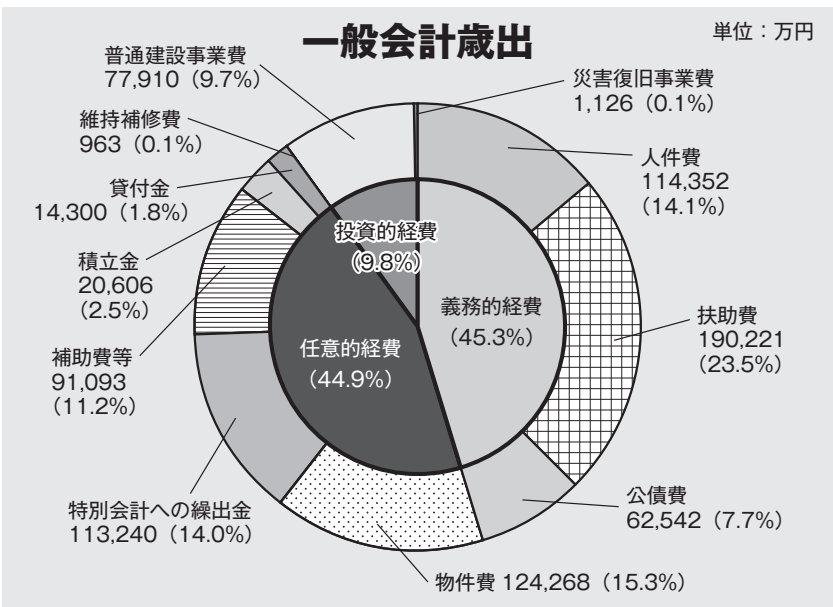


◎歳入（町に入ったお金）

平成28年度の一般会計の歳入決算額は、82億9670万円で、前年度に比べ、4億8228万円（5.5%）の減となっています。

歳入決算額を自主財源（町が自主的に収入したお金）と依存財源（国や県から交付されたお金等）に分類すると、自主財源の構成比が40・4%、依存財源が59・6%となっており、依存財源の占める割合が高くなっています。

一般会計決算 歳出総額 81億1,186万円



※グラフの数値は、決算統計上の数値を用いるため、歳出総額と一致しません。

◎歳出（町が使ったお金）

平成28年度の一般会計の歳出決算額は、81億1186万円で、前年度に比べ、4億7286万円（5.5%）の減となっています。

歳出決算額を性質別に分類すると、人件費や扶助費、公債費を合わせた義務的経費は、全体の45・3%を、支出が社会資本形成（道路等の公共施設）に向けられる投資的経費の割合は9.8%を占めています。

また、それ以外の任意の経費は44・9%を占めています。